

3.2.2 臨海実習

担当：岩本 哲人

実施時期：令和4年7月26日(火)～27日(水)

場所：神戸大学 内海域環境教育研究センター(淡路市岩屋)

対象生徒：本校1, 2年次参加希望生徒12名

講師：上井 進也 様 (神戸大学 海域生物多様性分野 教授)

大沼 亮 様 (神戸大学 海域生物多様性分野 講師)

鈴木 雅大 様 (神戸大学 マリンサイト 特命助教)

伊集 盛人 様 (神戸大学 マリンサイト 技術専門職員)

1.研究開発の経緯と目的

本事業は今回で11回目である。この事業を実施した目的・ねらいは神戸大学内海域環境教育研究センターにて臨海実習を行い、成果発表会を実施し、今後の課題研究に繋げることである。

2.仮説

本事業により、育むことができる力は以下の通りである。

	A:課題設定力	B:企画協働力	C:論理考察力	D:自己学習力	E:表現理解力	F:知識・技能
仮説	○	○	○	○	○	○

臨海実習を通して海の生態系について専門的な講義と実習を行い、参加生徒に疑問や課題を持たせることができる。またフィールドワークや成果発表会も実施している。これらの活動を通して、すべての力を育むことができると思われる。

3.研究内容・方法

仮説を検証するために行った研究内容は以下の通りである。7/26(火)神戸大学マリンサイトにて、海藻採集と岩礁の生きもの観察、プランクトンの観察と光合成色素の分離の実験を行った。7/27(水)午前は前日に採集した海藻標本の作成を行い、午後には成果発表会を行った。

4.検証

育むべき6つの力について事前事後での5段階の評価を行った。平均値は以下の通りである。

	A:課題設定力	B:企画協働力	C:論理考察力	D:自己学習力	E:表現理解力	F:知識・技能
事前平均	4.2	3.7	3.8	3.5	3.5	3.8
事後平均	4.0	4.2	3.8	3.7	3.1	3.8

3年ぶりに淡路島で開催した。改修された施設マリンサイトで生徒たちはフィールド調査・実験観察・成果発表会に至るまでよく活動した。特に海に入ってから海藻採集の経験は大変印象に残ったようである。1日目にプランクトンの観察、光合成色素の分離、海藻標本の作成など多くのプログラムを入れたため、2日目に海藻標本の作成を回すことになったことは反省点であった。成果発表会は、各班15分間であったが作製したスライドを用いて発表することができた。今後の改善点としては、持続可能なプログラムの構築と本校教員指導による新しい事業の構築であると思われる。